

2019年度 社会学部・社会学研究科
「学部・大学院修士課程五年一貫教育プログラム」
概要

1. プログラムの趣旨

一橋大学大学院社会学研究科は、学部と大学院修士課程での教育をより密接に接続することによって、研究者または高度職業人を目指す優秀な社会学部在籍者が、より専門的な教育を受け、かつ、早期のキャリアアップを可能にするため、2019年度より「学部・大学院修士課程五年一貫教育プログラム」を開始します。このプログラムにより、学部4年次に大学院の授業の正規履修が可能となるだけでなく、修士課程を実質的に1年間で修了することが可能になります。学部教育と大学院教育を融合させた密度の濃い教育によって、高度職業人を目指す学生にとっても研究者を目指す学生にとっても、個々のキャリア形成において求められる専門知識、思考力、分析力、アウトプット力を短期間で修得することができるプログラムです。

2. プログラムの概要

- ・本プログラムの履修を希望する学生は、社会学部3年次に選抜試験を受験し、合格する必要があります。
- ・選抜試験に合格してプログラム履修資格者となった学生は、学部4年次に学部授業だけでなく大学院授業を履修することができます。
- ・プログラム履修資格者は、学部4年次修了時に卒業論文を含む学部卒業単位を取得して学士号（「学士（社会学）」）を取得します。
- ・大学院教育のカリキュラムとしては、概ね学部4年次は修士課程1年次、修士課程1年次は同2年次と同等とみなし、修士課程の必修科目はそれに基づき履修します。
- ・プログラム履修資格者は、学部4年次に社会学研究科大学院修士課程入学試験を受験し合格することで、修士課程1年間在学での修士号（「修士（社会学）」）取得の資格が与えられます。
- ・修士課程入学試験は、「特別選抜」（総合社会科学専攻のみ）、「秋期一般選考」、「春期一般選考」のいずれでも受験できます。
- ・本プログラムの履修によって取得した学位（学士号・修士号）は、標準修業年限（学部4年・修士2年）で取得される学位と同じものです。

3. プログラム履修資格者の選抜

- ・プログラム履修資格者選抜試験は、毎年1月に行います（前年12月出願）。
- ・出願資格は、2016年度以降に入学し、社会学部3年次に在学する者（2018年度10月1日現在）で、①GLP履修者、または、②当該年度春夏学期までのGPAが3.0以上の者が有します。
- ・選抜試験では、出願書類（志願書・研究計画書・成績証明書など）と口述試験の総合点で合否を判定します。口述試験では、学部での授業履修などこれまでの学修状況、問題意識、修士号取得に向けての研究計画などを聞きます（30分程度）。

4. プログラム出願・履修のスケジュール

プログラム履修資格者	学部3年次	学部4年次	修士課程(1年間)	博士後期課程(3年間)
	学部科目履修 学部後期ゼミ履修 プログラム出願	学部科目履修 学部後期ゼミ履修 大学院科目履修 大学院ゼミ履修 修士課程入試受験 卒業論文提出 プログラム履修開始	学部卒業(学士号) 大学院科目履修 大学院ゼミ履修 修士論文執筆 博士後期課程進学試験 就職活動など 修士課程修了(修士号)	大学院科目履修 博士論文執筆 博士後期課程修了(博士号)
標準年限の履修者	学部3年次	学部4年次	修士課程(2年間)	博士後期課程(3年間)
	学部科目履修 学部後期ゼミ履修	学部科目履修 学部後期ゼミ履修 修士課程入試受験 卒業論文提出 学部卒業(学士号)	大学院科目履修 大学院ゼミ履修 修士論文提出 博士後期課程進学試験受験 就職活動など 修士課程修了(修士号)	大学院科目履修 博士論文執筆 博士後期課程修了(博士号)

2016年度学部入学者	
2018年12月	プログラム履修資格者選抜試験出願(学部3年次)
2019年1月	同 受験
4月～	プログラム履修開始
7月(予定)	修士課程特別選考受験*
9月(予定)	修士課程秋期一般入試受験*
12月	—
2020年1月	—
2月(予定)	修士課程春期一般入試受験*
4月～	修士課程入学
7月(予定)	—
9月(予定)	—
2021年1月	修士論文提出
2月(予定)	(博士後期課程進学試験受験)
3月	修士課程修了(修士号取得)
4月	博士後期課程進学・就職など

(*は、それぞれいずれか)

5. 科目履修

- ・プログラム履修資格者にとって学部4年次は、身分上は学部生ですが、大学院科目履修の面では実質的に大学院生と同等に扱われます。
- ・学部4年次から大学院科目の履修が可能になり、修士課程修了の必要単位数に算入されます（学部卒業のための学部科目も引き続き履修できます）。
- ・学部4年次には、学部後期ゼミと大学院ゼミの両方を履修します。
- ・学部4年次に提出する卒業論文は、5年一貫教育プログラムにおいては、「修士論文中間レポート」の位置づけになります（卒論の表紙に「卒業論文（5年一貫教育プログラム 修士論文中間レポート）」と記されます）。提出期限は、卒業論文と同じです。
- ・大学院社会学研究科は、総合社会科学専攻と地球社会研究専攻の2専攻からなり、それぞれ修了要件が異なります。そのため、プログラム出願時に、4年次から所属を希望する大学院ゼミ教員の承諾を得て志願書に署名してもらった上で、どちらの専攻のカリキュラムにのっって履修するか、その教員と綿密に相談して決定してください。大学院進学時も、専攻をまたいだ大学院ゼミ変更はできませんので、気を付けてください。また、2専攻それぞれの必修科目（総合社会科学専攻の「社会科学研究の基礎」、地球社会研究専攻の「地球社会研究Ⅰ」）は、プログラム履修開始年度（学部4年次）の履修が推奨されます（総合社会科学専攻の「リサーチ・ワークショップ」、地球社会研究専攻の「修士論文中間報告」は、修士論文提出予定年度に履修）。

6. Q&A

・プログラムに出願して合格すると、大学院への入学が決まったことになるのですか？

なりません。プログラムに出願・合格すると、4年次に大学院の単位を履修する「資格」と、修士課程を1年で修了できる「資格」が与えられます。大学院入学は、あくまで4年次に大学院入試を受験し、合格する必要があります。

・プログラム履修資格者は、卒論を書くのですか？

5年一貫プログラム資格者も、4年次に卒業論文を書き、学部卒業単位を満たして、学士号を取得する必要があります。ただし、プログラム履修資格者の卒論は、「5年一貫教育プログラム 修士論文中間レポート」と明記されます。

・プログラム出願にあたっての「研究計画」はどのようなことを書けばいいのですか？

学部4年次と修士課程の計2年間で取り組み、修士論文としてまとめたい研究のテーマ、関心を持つにいたった経緯、研究のために参考にする予定の文献や資料、2年間の大まかな日程などについて、自由に書いて下さい。

・口述試験（面接）では何を聞かれるのですか？

研究計画書をはじめとする出願書類に基づいて、それまでの学修状況や関心の所在、意欲、研究計画について幅広く話を聞きます。

- ・ 2016 年度に学部入学したのですが、留年・休学のため 2018 年度は 2 年次に在学中です。いつ、プログラムに出願することができますか？

プログラムへの出願は学部 3 年次在学学生のみ可能ですので、最短で 2019 年度に実施される 2020 年度プログラム履修資格者選抜に出願できます。

- ・ 学部 3 年次に留学を計画していますが、プログラムへの出願は可能ですか？

可能です。ただし、交換留学以外の留学などのために休学中の場合は出願できません。出願や選抜試験の日に留学のため国外にいるなどの理由で大学に来ることができない場合は、郵送での出願、インターネット中継での面接試験受験を認めることがあるので、事前に問い合わせてください。

- ・ プログラム履修資格者になったのですが、学部卒業単位を 4 年間で取り終わらず、学部 5 年目に在籍することになりそうです。その場合、プログラム履修資格は失いますか？

失いません。学部卒業単位（卒業論文＝修士論文中間レポートを含む）を取り終えて、社会学研究科修士課程入学試験に合格すれば、大学院進学から 1 年間で修士課程を修了する資格は維持されます。ただし、学部卒業前に中途退学または除籍になった場合は、プログラム履修資格を失います。

- ・ プログラム履修資格者として学部を卒業して、大学院社会学研究科に進学しましたが、1 年間で修士論文を書けませんでした。もう、修士号は取得できないのでしょうか？

修士課程在学 2 年目以降に修士論文を提出すれば、修了することができます。ただし、標準年限履修者と同様に、在学 4 年・休学 2 年（計 6 年）を超えて在学することはできません。

- ・ 大学院では、学部の後期ゼミ（主ゼミ）とは別の教員を指導教員としたいのですが、可能ですか？

可能です。たとえば、学部 4 年次に A 先生の学部後期ゼミ（主ゼミ）、学部 4 年次および大学院進学後に B 先生の大学院ゼミを履修し、学部卒業論文は A 先生、修士論文は B 先生を指導教員として学位を取得することができます。

- ・ プログラム履修資格者になると、学費などが安くなりますか？

修士課程を最短で 1 年間で修了できますので、標準より在学期間が短くなった分の授業料を節約することができます。ただし、大学院入学試験の受験料や大学院入学金は、他に減免の事由がない限り、通常通りに支払わなければなりません。